

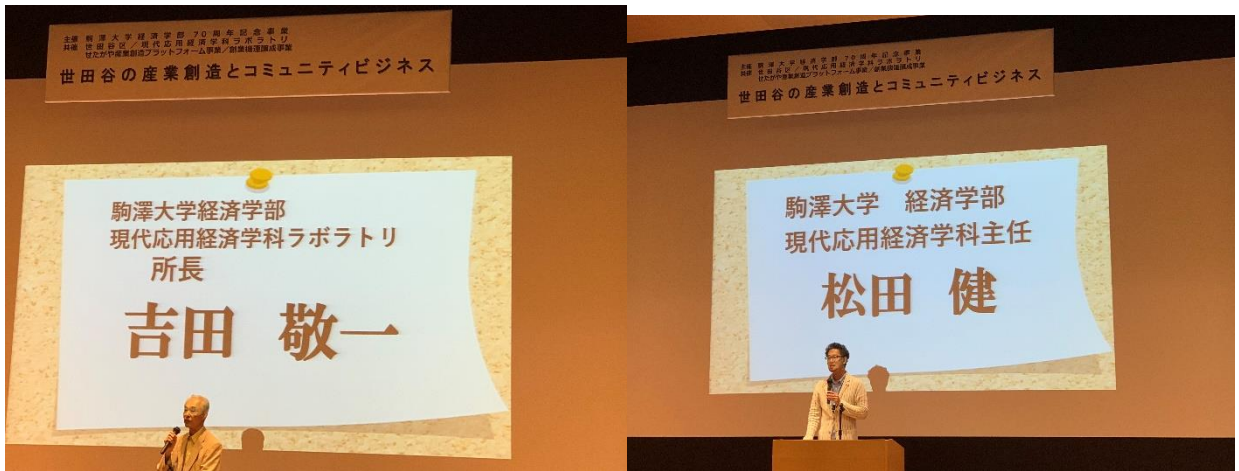
現代応用経済学科ラボラトリ企画シンポジウム (駒澤大学経済学部 70 周年記念事業-1) 開催報告

2019年6月23日(日)、駒澤大学深沢キャンパス 120周年アカデミーホールにおいて世田谷区共催のシンポジウム(現代応用経済学科ラボラトリ企画・経済学部70周年記念事業)を開催しました。本シンポジウムは、世田谷区「せたがや産業創造プラットフォーム事業」および経済産業省中小企業庁「創業機運醸成事業」の一環としての開催でもありました。全体テーマは、「世田谷の産業創造とコミュニティビジネス」です。

■13:00～13:15 ご挨拶

まずは、本シンポジウムの共催者を代表して、世田谷区の保坂展人区長、駒澤大学の長谷部八朗学長、岩波文孝教授(経済学部長)、松田健教授(現代応用経済学科主任)、吉田敬一教授(現代応用経済学科ラボラトリ所長)からの挨拶がありました。総合司会は現応ラボ事務局長の松本典子教授がつとめました。





■ 13:15～14:30 第一部 世田谷地域産業の現状と課題

● 13:15～13:35 基調講演

第一部は、世田谷区経済産業部の田中耕太部長より「世田谷の産業創造：世田谷区経済産業の動向」と題しての基調講演からスタートしました。今年度発行された『世田谷区経済産業白書』にもとづき、世田谷の実態をデータからマクロ的に捉えた内容でした。現代応用経済学科「新入生セミナー」の講義の一環として聴講していた学生にとってみても非常に分かりやすい説明でした。



● 13:35～14:30 パネル討論

続いて基調講演を受け、下記のテーマとメンバーのもと、パネル討論を行いました。まずは、パネラーの所属組織における創業支援

の現状報告を行い、世田谷における創業の現状と課題について話し合いました。そのなかで、地域の資源を活かし、地域の社会課題を解決する「コミュニティビジネス」の起業、地域密着型の小さな起業に対する期待が集まりました。最後に、モデレーターから、世田谷における「起業活動（アントレプレナーシップ）」を軸とした地域の総合政策、創業機運醸成とコミュニティビジネス創出を促進する地域プラットフォームの理念モデルが示され、パネラー間で議論を深めました。

テーマ：

「世田谷地域産業の現状と課題」「せたがや発コミュニティビジネスへの期待」「せたがや産業創造プラットフォームの役割」

パネラー：

世田谷区経済産業部長 田中耕太

せたがや中小企業経営支援センター会長 谷きよみ

I I D世田谷ものづくり学校企画ディレクター 石塚和人

昭和信用金庫営業推進部事業支援課長 水上浩介

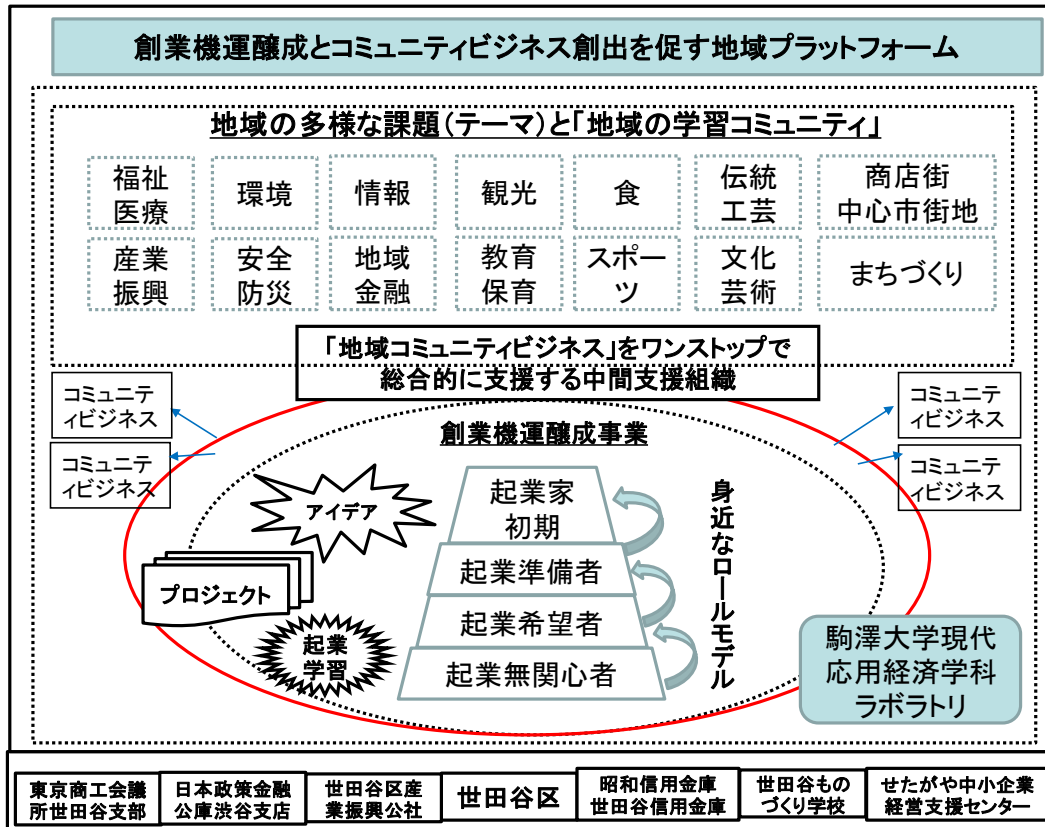
世田谷区立男女共同参画センターらぶらすディレクター 阪口さゆみ

モデレーター：

駒澤大学経済学部教授・現代応用経済学科ラボラトリ副所長 長山宗広



世田谷における創業支援モデル:「起業」を軸とした地域の総合政策



備考:駒澤大学現代応用経済学科ラボラトリ作成

■ 14:30~16:00 第二部 せたがや発のコミュニティビジネス 起業家6名によるプレゼンテーション

第二部では、世田谷区内で活躍している起業家の方々に創業の過程やライフヒストリー、現在の事業の課題などをプレゼンしていただきました。

- ① ㈱三茶 WORK カンパニー代表 吉田亮介
- ② ㈱AzhaiCommunications 代表取締役/STEM教育協会理事 久木田寛直
- ③ みんなのジッカ代表 榎本吉宏
- ④ アトリエそら豆代表 高尾久子
- ⑤ 特定非営利活動法人 amigo 代表 石山恭子
- ⑥ グリーフサポートせたがや代表

■ 16:10～17:20 第三部 起業家との交流 コミュニティビジネス・アイデア大会（全員参加型ワークショップ）

司会進行：現応ラボ学生運営委員会

第三部では、学生が主体的となって全員参加型ワークショップ、ブレーストーミングを行いました。現応ラボ学生運営委員会によるブレストの説明後、参加者は第二部のプレゼンで起業家6名が提示したテーマ（お題）を受けて6つの班に分けられました。各班ごとに起業家を囲んで、テーマに即したアイデアを出し合い、いい雰囲気ブレストが行われました。最後に、各班ごとに、集まったアイデアの発表も行われました。

A班：三茶 WORK カンパニー

（テーマ）駒沢での暮らしをもっと楽しく、豊かにするためにどんな場所・お店が欲しいか？

B班：AzhaiCommunications

（テーマ）世田谷でのSTEM教育とものづくりに関する魅力的なワークショップのコンテンツについて

C班：みんなのジッカ

（テーマ）松陰神社前周辺の地域資源を活かした多世代交流について。

D班：アトリエそら豆

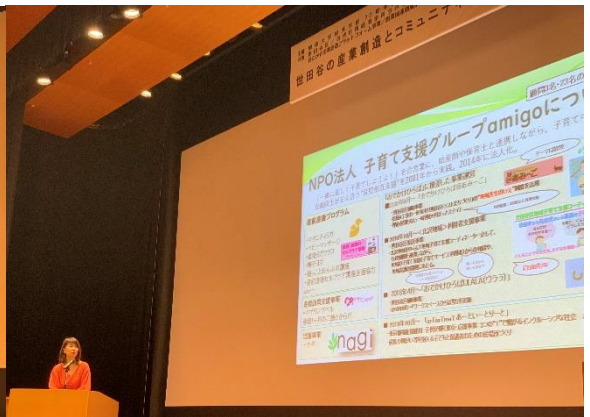
（テーマ）豆ジャムに対する意見や新商品に関する新しい案

E班：amigo

（テーマ）「うままちプラス」のイベント案

F班：グリーンサポートせたがや

（テーマ）グリーンサポートせたがやの活動に対して若い人たちの関心はどこにあるのか。もっと若い人たちに知ってもらうための広報について。



■ 17:20～17:30 閉会挨拶と今年度のラボ事業のご案内

最後に、世田谷区経済産業部の田中耕太部長より総括コメントと閉会挨拶がありました。また、ラボ事務局（松本事務局長）から、ラボの今後の活動に関する告知があり、シンポジウム終了となりました。

盛会となり、当日の参加者は本学学生を含め、延べ約 200 名でした。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

2018年度
第1回ラボ
シンポジウム

世田谷の産業創造と コミュニティビジネス

駒澤大学経済学部70周年記念事業

共催 世田谷区/現代応用経済学科ラボラトリ
せたがや産業創造プラットフォーム事業/創業機運醸成事業

日時 **2019年6月23日(日)**
13時～17時30分
【受付開始12時30分】

参加費
無料

会場 駒澤大学深沢キャンパス120周年アテミホール
(世田谷区深沢6-8-18)

定員 200名(学生100名、一般100名)

ご挨拶

深坂雅人 長谷部八朗 若波文学
松本典子(駒澤大学経済学部教授・現代応用経済学科)

第2部 起業家のプレゼン

せたがや発コミュニティビジネス

吉田晃介 <small>(アピタ)</small>	久木田寛道 <small>(駒澤大学学生起業家)</small>
根本吉宏 <small>(アピタ)</small>	高尾久子 <small>(アピタ)</small>
石山熱子 <small>(アピタ)</small>	グリーンサポート <small>(せたがや)</small>

第1部 基調講演 パネル討論

世田谷地域産業の現状と課題
せたがや産業創造プラットフォームの役割

基調講演「世田谷の産業創造」 田中耕太
(世田谷区経済産業部長)

谷きよみ <small>(アピタ)</small>	水上浩介 <small>(アピタ)</small>
坂口さゆみ <small>(アピタ)</small>	石塚和人 <small>(アピタ)</small>
長山京広 <small>(駒澤大学経済学部教授・現代応用経済学科)</small>	

第3部 全場参加型
ワークショップ

起業家との交流
コミュニティビジネス・アイデア大会
現任ラボ学生運営委員

一般参加者 駒澤大ラボラトリ事務局宛 Mail: KGIab@komazawa-u.ac.jp
申し込み要 世田谷区産業連携交流推進課宛 FAX: 03-3411-6635